

スキー学校

12月25日～29日の4泊5日で、スキー学校が行われました。
スキー学校は今年で56回目、天元台スキー場で開催されてからは42回目という伝統行事になっています。中学生はスキー、高校生はスノーボードも修練することができ、技術検定を受けることもできます。今年は66名の中学生、42名の高校生と多くの生徒が参加しました。

スキー学校の思い出

スキー学校初日は猛吹雪だった。
駅に着いた時はそうでもなかったが、いざバスで天元台に着くと、ものすごく吹雪いていた。
あまりの天気悪さに初日のスキー講習はリフトが使えず満足な練習ができなかった。
その夜のミーティングでは明日はいい天気になるだろうとのことだったので、楽しみにしていた。
ところが、次の日も明るく同じような天気だった。
スキー場は恐ろしいほど寒かったが、とりあえずリフトは動いていたので僕たちは気合いと根性で滑った。
滑っているうちに段々体が暖まり楽しくなってきた。
講師の方に教えていただいて、上手に滑れる様になるともっともっと楽しくなった。
ただ残念なことに最終日のバッヂテストでは目指していた級には受からなかった。
それでも仲間と一緒に過ごした数日はとても楽しかった。また来年も行きたいと思う。

中学2年B組 日高 昂祐



行事予定～中学校～

1/25(日)	中学校入試第1回・帰国児童入試
26(月)	中学校入試第1回・帰国児童入試合格発表
28(水)	中学校入試第1回・帰国児童入試入学手続き(～2/3)
2/3(火)	中学入試第2回願書窓口出願
4(水)	中学入試第2回
5(木)	中学入試第2回合格発表・入学手続き
11(水・祝)	入学予定者・保護者登校日
13(金)	マラソン大会
21(土)	入学予定者心電図検査
26(木)	中3期末試験(～28日)
3/4(水)	中1・2期末試験(～6日)
14(土)	卒業式
19(木)	終業礼拝
21(土)	春季休業(～4/7)
4/8(水)	入学式
9(木)	始業式

行事予定～高校～

1/28(水)	立教大学推薦入試合格発表
2/2(月)	高校入試
3(火)	高校入試合格発表
6(金)	入学手続き
13(金)	マラソン大会
24(火)	高1・2期末試験(～28日)
3/7(土)	入学予定者教科書販売日
13(金)	卒業式
18(水)	高1・2英語スピーチコンテスト
19(木)	終業式
21(土)	春季休業(～4/7)
4/7(火)	高校新入生ガイダンス
8(水)	入学式
9(木)	始業式

イルミネーション点灯式

12月1日にイルミネーション点灯式が行われました。

礼拝を行い、その後正門にある2本のヒマラヤ杉のイルミネーションに点灯を行う行事です。毎年点灯前にはチャペル周辺の電気を消し、クリスマス実行委員によって作られたキャンドルライトの明りの中「きよしこの夜」を歌います。今年は参加者が多く、とても賑やかな点灯式になりました。



編集後記

みなさんは本校のホームページをご覧になったことがありますか？

実は大幅にリニューアルをすることになり、現在作業を行っています。3月にはみなさんに見ていただけたと思います。立教大学や小学校・池袋中高とも連携して、見やすいサイトを作っていこうと思っていますので、ご期待ください。

Campus News Rikkyo Niiza 第44号

編集：立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課
発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)



Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza-hs.rikkyo.ac.jp/>

〈No.44〉

聖パウロ礼拝堂(チャペル)

立教新座中学校・高等学校にとって聖パウロ礼拝堂とは

1960年4月にスタートした立教新座高等学校に聖パウロ礼拝堂が建立、落成したのは、その3年後の1963年4月25日(福音記者聖マルコ日)である。聖別式の司式者は当時の北関東教区主教大久保直彦神父であった。それに先立つ同年1月25日(使徒聖パウロ回心日)に定礎式が行われ、この時正式にチャペルの名称を

「立教学院聖パウロ礼拝堂」と命名した。以来、私たちのチャペルは生徒、教職員たちにとって必要欠くべからざる建物、空間、スペースとなってきた。いわば私たちの学校の中心、心臓部と言って良いだろう。ここで人々はしばし沈黙し、聖書のみことばに耳を傾け、自己を省み、他者を思い、そして祈りを献げるのであ

る。いや、そのようにする前に、自らを赤裸々に神の前に投げ出して、ただ居ることがゆるさされている、そういう場所がチャペルなのである。泣きたい時には泣き、助けを求める時には心から叫び、有り難い時には感謝する、様々な祈りをなす所、そこがあなたたちのチャペルである。(チャプレン 長谷川清純)



立教新座はキリスト教を建学の精神として建てられた学校です。キリスト教の教えを一人一人が日々実践することにより、より良い人間関係を築きあげることが目標としています。正門を入ってすぐ目に飛び込んでくるチャペルや高くそびえるベルタワーは、その活動の中心的役割を果たしています。

本校のチャペル(立教学院聖パウロ礼拝堂)は、ノアの箱船をイメージしてつくられました。イギリスの建築家・レーモンドの設計で、建立されてから今年で46年。立教新座の歴史と共に歩んできたこのチャペルは、まさに本校のシンボルとして存在し、そこでは様々な礼拝、行事が行われています。

さて、チャペルの中ってどうなっているのでしょうか。中ではどんなことが行われているのでしょうか。

普段馴染みがなくても、チャペルにちょっと足を踏み入れてみる・・・そこには何か日常とは違った空気が流れているような気がするはずですよ。

PICK UP レーモンド

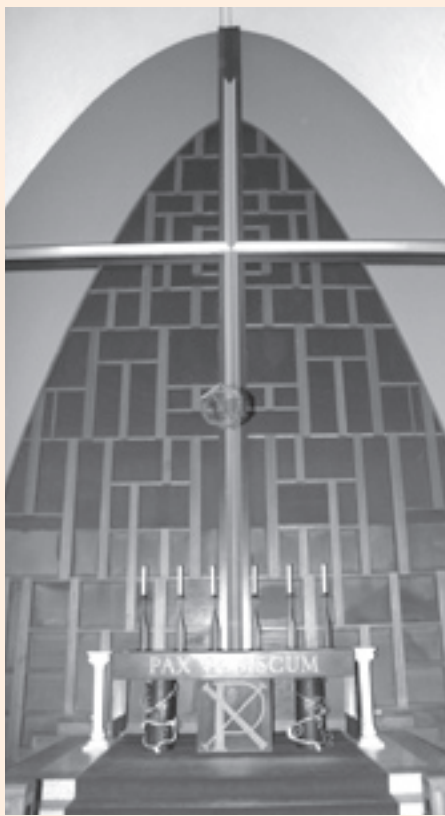
本校の聖パウロ礼拝堂や本館は、アントニン・レーモンドにより建設されました。

レーモンドとは1888年にチェコで生まれた建築家で、1919年に帝国ホテル建設に携わって以来、日本に滞在し、学校、教会、住宅、公会堂などにモダニズム溢れる優れた建築作品を残しました。一部の作品は国の登録文化財に指定されるなど高い評価がされています。戦前・戦後の日本の再建に重要な役割を果たし、「日本近代建築の父」とも呼ばれています。

主な作品として、東京女子大や軽井沢聖ポール協会などがあります。

チャペルあれこれ

チャペルに関する豆知識を
ひろってみました。



(正面写真、祭壇写真)

正面の十字架は、イエスの受難を記憶するもの。中央銀色の十字架は天井より床まで一本の太い木で作られており、天井より下界まで貫く神の人類救済の大思想を表している。左右の美しい空色は、天空・精神界を表し、中央部の乱れ格子は、人間社会の様々な関係、親子、兄弟、等々を表現している。

祭壇中央の「PAX VOBISCUM (パクス・ヴォビスクム)」は、ラテン語で「平安汝らにあれ」の意味で、復活したイエスが弟子たちに語られた挨拶(ヨハネ20の16)の言葉。

祭壇脚部の「X」と「P」のしるしは、ギリシャ語のキリスト「XPISTOS」の初め二字「X(カイ)」と「X(ロー)」の組み合わせで、地下墓地の中にしばしばこの記号がある。チャペルに備え付けられているパイプオルガンは、オーストリアのヴァルカー・マイヤー社製。説教台の左奥にある演奏台は手鍵盤(2段)、及び足鍵盤。総数747本に及びパイプは、正面乱れ格子の裏に備えられている。



(ベルタワー)

タワーの高さ31m、その上に4mの十字架が立っている。取り付けられている大中小3つのベルは、「ビック・ベン」として有名なウェストミンスター宮殿(英国国会議事堂)の時計台のベルを製作したホワイトチャペル・ベルファンドリー社製。ちなみに、本校正門から朝霞方面に延びる市道は、「鐘の音通り」と名付けられている。



(ピエタのレリーフ)

チャペル入り口内側壁面にあるピエタ(嘆きの聖母像)のレリーフは、本校卒業生で日本美術展覧会(日展)会員である三坂 制氏製作によるもの。縦横2m、重さ150kg、ブロンズ製。三坂氏の作品は、練馬区の四季の香公園、春の風公園、大泉井頭公園、扇山公園や、川越駅西口広場などに設置されている。

教会暦あれこれ

年間の礼拝の流れをご紹介します。
下記の大きな節のもとに礼拝を行っています。

「降臨節」

教会暦の第1日で、12月25日から4週前の日曜日からはじめます。イエスの誕生を待ち望むための期間になります。「アドベント」と呼ばれます。

「降誕節」

12月25日のクリスマス(降誕祭)から、1月5日までの期間で、イエス・キリストの誕生を祝う期間になります。

「顕現節」

顕現とは「神などがはっきりした形をとって現れること」という意味です。顕現日は、星をみるべに東方の博士たちが、生まれたばかりのイエスに礼拝したことの記念日です。

「大斎節」

復活祭に先立つ7週目の水曜日からはじめ、日曜日を除いた40日間で、「レント」と呼ばれます。大斎節の終わりにイエス・キリストは、十字架の上に贖罪を遂げられました。十字架を思うことによって、克己節制をする期間になります。

「復活節」

十字架にかけられて死んだイエス・キリストが3日目によみがえったことを記念する期間です。復活日は「イースター」とも呼ばれます。キリスト教の教会暦における最も重要な祝いの期間になります。

「聖霊降臨日」

復活祭から50日目までイエスの復活・昇天後、祈っていた使徒たちが聖霊にみたまされたことを祝う日になります。

活動あれこれ

アコライトのクラブ活動
についてご紹介します。

高校 1年2組 中川 隼

このアコライトとは礼拝に奉仕する者の集まりといった意味があります。

アコライトの日頃の活動は一言で言って、縁の下の力持ちと言っても過言ではありません。主に3、4月の卒・入学式において十字架をつけた棒(クロス)やろうそくをつけた棒(トーチ)を持って歩くのが活動の基本です。また我が校のチャペルにおいて毎週日曜日に信徒と共に礼拝を捧げるのも活動のひとつです。

活動が最も忙しい時期は3月、4月、12月です。

12月はイエスの誕生を祝う礼拝が多数あるため23~25日はおのずと忙しくなります。私は去年のクリスマスは23日と25日を新座のチャペルで、24日を立教大学池袋キャンパスのチャペルで奉仕をするという忙しさを経験しました。

今アコライトギルドの部員は4名と小所帯ですが、今後も意欲的に活動したいと思います。

チャペルだより

立教学院聖パウロ礼拝堂

立教新座中学校・高等学校の校舎の隣に建てられているチャペル、毎朝のチャペルアワーや学年礼拝、イースター、収穫感謝、クリスマス礼拝、そしてわたしたちが今行っている聖パウロ回心日礼拝など、生徒の皆さんが学校生活の一環として過ごす本校のシンボリック存在ですが、このチャペルの正式名称は立教学院聖パウロ礼拝堂と言います。

教会では多くの聖人が活躍しましたが、教会の礼拝堂を、聖人のお墓の上に建てる習慣があり、その際、教会や礼拝堂に、その墓地に眠る聖人の名前をつけました。その聖人の生き方や教えを重んじ、それを証していくのを務めとするため、聖人の名前を教会や礼拝堂につけたのです。

立教学院聖パウロ礼拝堂は、立教新座高等学校本館が建設された3年後の1963年に建設され、1世紀最大の伝道者と言われる使徒聖パウロの働きを

覚え、キリストを伝える学校としての使命をその名に現しているわけです。また、立教大学の英語名は、St. Paul Universityであり、直訳すれば、聖パウロ大学ということになりますので、このパウロという名前は、立教創立よりその精神を受け継いできた存在でもあります。

使徒聖パウロは、タルソスという都市で生まれたユダヤ人で、ローマの市民権も持っていました。新約聖書の使徒言行録によりますと、パウロは当初サウロと呼ばれており、キリストを伝えるどころか、教会に集う人々を殺そうと意気込んで、迫害に次ぐ迫害を重ねていた人でした。ある日、迫害を行うためにダマスコという町へ出かけて行く途中、主イエスの光に打たれて3日間目が見えなくなりました。そしてアナニアという人の導きによってパウロは目が見えるようになり、生き方が180度変えられたのです。再び人々の前に立ったパウロは、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝える者になっていて、これを聞いた人々は皆、非常に驚いたと書かれています。

パウロは、主イエスの弟子たちと力を合わせて教会の働きに加わり、地中海沿岸を3回にわたって宣教旅行をしました。

そして護送される形でローマへ行き、64年、時のローマ皇帝ネロの迫害によって殉教したと言われていました。新約聖書の約半分の書物は、パウロの名によって書かれており、1世紀最大の伝道者と言われる理由もここに 있습니다。

毎年1月にわたしたちは、聖パウロ回心日礼拝を守りますが、これは上記の聖書の箇所を記念して行われているものです。パウロは心を改めたのではなく生き方が180度変えられたことから、改心ではなく回心という字を用いています。私たちの生き方が神様に向かっていなければならないことをパウロは自分の経験を持って語ったのでした。そして自分を誇るのではなく神様を指し示す使命をパウロは全うしました。

立教の創始者であるウィリアムズ主教が、「道を伝えて己を伝えず」の生き方を貫きましたが、これはパウロの生き方と全く同じことに気づかされます。

わたしたちの立教学院聖パウロ礼拝堂は、このような目的や思いの上に存在していることを、改めて心に刻んでみましょう。

(チャプレン 鈴木伸明)

新座キャンパス 中高大連携講演会

「夢」と「出会い」と「感謝」

12月17日、立教大学新座キャンパスN421教室で、新座キャンパス中高大連携講演会が行われました。この講演会は、同じキャンパスで教育活動を行っている立教大学と本校が共催しており、昨年に引き続き第2回目となります。

今回は、昨年に行われた北京パラリンピックに、車椅子バスケットボール日本代表として出場された京谷和幸（きょうや かずゆき）さんをお迎えし、「夢を持つことの大切さ」をテーマに講演していただきました。

京谷さんは、もともとはサッカー選手として中学・高校と輝かしい実績を残し、Jリーグのジェフ市原（現千葉）に入団。将来の日本代表を背負うことを期待されていた選手でしたが、突然の交通事故で車椅子での生活を余儀なくされてしまいます。その後、車椅子バスケットボールに出会い、シドニー、アテネそして北京と3大会連続でパラリンピックに出場されています。

京谷さんは、小学校5年生の時に、「プロのサッカー選手になる」という夢を抱きます。「なりたい」ではなく「なる」という強い意志で厳しい練習やさまざまな困難に立ち向かっていったそうです。京谷さんの「皆さんは、夢に本気で向かい合っていますか？」という問い掛けに、中高生は少々圧倒され気味でしたが、夢に真剣に向き合うことの大切さを学んだことでしょう。

そんな京谷さんですから、大事故での失意のなか、「車椅子でもできるスポーツ」である車椅子バスケットボールを知り、2年かかると言われたリハビリを8ヶ月で終え、パラリンピックを目指し、バスケットボールの練習に励みます。

『今では、交通事故でさえ、それまで順風満帆であった自分自身の身勝手さ、周囲の人たちの助けで自分が生きてこれたことに気付かされた「出会い」であると考えています。』『「夢」をもって本気で行動をすれば、「出会い」（人やもの、チャンスとの「出会い」）が生まれ、そのことに「感謝」しながら新たな「夢」を見出す。このサイクルの大切さを、力

説なさっていました。

講演会に参加した中・高生や大学生も、京谷さんの物事に対する前向きな姿勢と、行動力あふれるお話から、大きな勇気を頂きました。

